

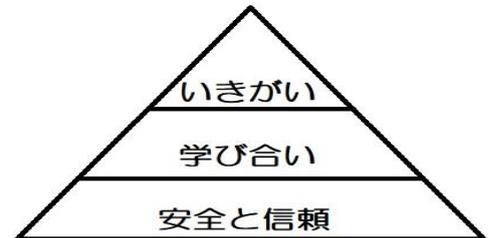
令和 5(2023)年度八王子市立第九小学校学校経営報告書

1 今年度の取組と自己評価

八王子市立第九小学校の教育活動は、「安全と信頼」を基盤とし、「学び合い」を中核とし、「いきがい」をうむことを理念とする。

「安全と信頼」のない学校教育は成り立たない。「学び合い」のない学校には存在意義がない。この二つの欠くことのできない要素を充実させた上で、第九小学校にかかわる人々の「いきがい」を深めていく実践を進めてきた。

この考え方を「第九小学校の三つの働き」と呼ぶ。



「第九小学校の三つの働き」

(1) 三つの働きのうち、「安全と信頼を充実させる働き」の観点から、ふりかえる。

学校における安全の基本を「子どもも大人も元気に学校に来て、元気に帰る。」ことと捉える。そのために、子どもへの支援・指導があり、施設設備の改善があり、働き方改革がある。本校教職員が熱意をもって、子どもへの支援・指導や施設改善に取り組んでいる反面、以下の【表 1】【表 2】からも読み取れるように、コロナ禍や保護者の労働環境の変化（共働きの急増など）の影響は大きく、深刻な課題となっている。

他方、地域の方々や保護者からは学校の取り組みを高く評価いただいている項目でもある。

① 不登校児童数と欠席児童数から～コロナ禍の影響は大きく、登校状況は悪化している。大きな課題である。

一つめの指標として、登校に困難を抱える児童や欠席児童の数を参照する。

【表 1】過去 7 年間の、登校に重い困難を抱える児童数（欠席 90 日以上／本年度は 3 月が未定のため未確定。）

2017(H29)年度	2018(H30)年度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	本年度
4 名	3 名	2 名	7 名	7 名	8 名	13 人(未確定)

【表 2】過去 7 年間の、事故欠席(1 日あたり)数。（R2 年度はコロナ休校のため 9 月～1 月の集計、他は 4 月～2 月の集計）

2017(H29)年度	2018(H30)年度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	本年度
4.8 人/日 930 人÷194 日	4.7 人/日 882 人÷189 日	4.1 人/日 769 人÷189 日	10.2 人/日 1021 人÷100 日	7.8 人/日 1484 人÷190 日	6.8 人/日 1279 人÷188 日	14.0 人/日 2666 人÷190 日

※【表 2】は、昨年度までのデータに誤りがあり、訂正しましたが、傾向には変わりありません。

重い不登校状況の児童も事故欠席も、コロナ禍以降、非常に多くなっている。本年度はとりわけ深刻な状況であり、大きな課題である。

背景の一つとして、おそらくコロナ禍による精神的な抑鬱と、家庭に対する経済的な圧迫などがあるとされる。コロナ禍以降、共働きの家庭も増えた。

ただし子ども達が登校しにくい理由は一人ひとり違うはずである。全校的な対策とあわせて一人ひとりへの対応が求められる。登校支援・特別支援コーディネータ及び養護教諭を中心として、教職員や地域のサポーターやスクールカウンセラーなどを組織的に活用したり、子ども達の居場所を確保する支援のあり方を工夫したりしてきた。今年度からは、学校いじめ対策委員会を定期開催(週 1 回開催)し、一人ひとりの子どもに対応した支援を進めている。

来年度は、「①一人でも多くの子どもが参加できる学級集団づくりと学習活動の工夫」と「②教室以外の第二の居場所づくり」に取り組んでいくこととする。あわせて「③コロナで孤立した保護者の横のつながりの回復」も求められている。②については、八王子市から人員確保のための多大な予算援助をいただき感謝している。

②学校評価アンケートから

二つ目の指標として、学校評価アンケート結果を参照する。

アンケート結果を分析するにあたって、教職員で共有している考え方は「アンケートの回収率を高め、信頼性を増すこと。」、「学校として重視しているアンケート項目に注目すること。」、「8～9 割程度の肯定的評価があれば、数ポイント程度の増減に一喜一憂する必要はないこと。」である。

【表 3】過去 7 年間の後期学校評価アンケート回収率

2017(H29)年度	2018(H30)年度	2019(R1)年度	2020(R2)年度	2021(R3)年度	2022(R4)年度	本年度
75、7%	67、0%	82、8%	85、2%	88、7%	82、6%	87、1%

【表4】過去6年間の学校評価アンケート肯定的評価の比率（単位％）◎印は6年間で最も良い評価。

設問（設問は簡略化してあります。）	H30	R1	R2	R3	R4	今年度
アンケートの回収枚数	197枚	293枚	300枚	323枚	300枚	◎344枚
1 学校の教育目標を知っている。	77.3%	82.2%	86.0%	88.5%	86.0%	◎88.7%
2 学校が力を入れて行っている取組を知っている。	82.7%	89.4%	88.4%	91.6%	87.0%	◎92.2%
3 第二中と一緒にいる取組について知っている。	84.3%	86.0%	発問なし		78.3%	◎86.0%
4 安心安全に過ごせるように、安全管理に取り組んでいる。	今年度からの、市の新評価項目					◎97.7%
5 子どもが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動することができるような教育を進めている。	81.0%	87.0%	90.3%	92.0%	◎93.7%	89.8%
6 いじめの未然防止、早期発見、早期対応など、いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。	77.0%	82.5%	81.0%	◎84.8%	77.0%	82.0%
7 授業や行事に意欲的に取り組むよう指導が行われている。	今年度からの、市の新評価項目					◎90.7%
8 説明、板書、話し合い、視聴覚機器の活用などの工夫に取り組んでいる。	79.0%	84.6%	80.4%	81.1%	84.3%	◎91.0%
9 子どもの学習活動に対する評価は適切・公平である。	83.0%	89.7%	◎94.0%	90.7%	88.7%	89.8%
10 よりよい学校生活が送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導を行っている。【文言大幅変更】	78.9%	84.3%	91.0%	89.5%	88.3%	◎93.9%
11 キャリアパスポートなどを用いて、生き方や将来についてキャリア教育を行っていることを知っている。【文言大幅変更】	58.0%	55.9%	54.7%	57.6%	64.7%	◎90.4%
12 学校は学習環境の整備に取り組んでいる。	76.6%	87.0%	83.7%	85.1%	87.3%	◎88.1%
13 学校(学年・学級)は保護者に対して適切に情報を提供している。	79.0%	88.0%	88.0%	86.7%	87.7%	◎91.3%
14 特別支援教育(特別な支援を必要とする子どもに対するの教育)に取り組んでいる。	今年度からの、市の新評価項目					◎89.5%
15 分かる授業が行われている。	81.0%	◎91.1%	88.3%	85.8%	90.7%	90.7%
16 子どもは友だちを大切にしていると感じる。	87.0%	95.5%	◎97.7%	96.3%	96.3%	94.2%
17 家庭では、生活習慣(あいさつ・食事・睡眠など)の定着に、取り組んでいる。	87.8%	93.5%	◎95.0%	94.1%	92.3%	93.9%
◇子どもの学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。	80.1%	78.4%	◎84.6%	83.0%	84.3%	項目廃止
◇学校のコロナ対策は適切である。	発問なし		◎92.0%	91.6%	90.0%	項目廃止

【表3】【表4】からは、今年度も概ね良い評価をいただけたことが読み取れ、信頼向上の指標ととらえている。

全体の半数以上となる11項目で、過去6年間で最も良い評価となっている。このように高い評価をいただけたのは、教職員一同の努力の成果であるとともに、保護者との良好なコミュニケーションが成立していることも理由である。設問11「キャリア教育」は4年連続して肯定的評価が5割台であったが、今年度は市の設問自体に変更があったこともかかわって肯定的評価が9割台まで大きく改善した。この「キャリア教育／進路や職業についての指導」についてキャリア教育の一環として、6年生の学習では、豊職人・電気店店長・印刷会社会長・パティシエ、花屋・めだか屋(敬称略)など、地域で様々な働く方々をお招きし、「仕事にかける思い」を語っていただき毎年好評である。キャリアパスポートの活用も引き続いて行っていく。

今年度から第二中学校と共通の目標「誠実で、協調性があり、粘り強く困難に立ち向かう児童・生徒の育成」を設定した。設問3「第二中学校との取り組み」についての評価の改善も嬉しいことである。

気がかりなのは設問6「いじめを許さない学校づくり」が昨年度よりも回復したものの、全評価項目中最も肯定率が低く8割程度なことである。前記した「登校に困難を抱える子どもの増加」も併せて考えると、深刻である。

今後、子どもにとって「信頼できる大人」を一人でも増やすために、「①学年の担任で学年の子どもを見守る意識を高めるために、高学年を中心に担当教科を交換しあう。」ことや、「②学習ボランティアの強化」をすることに取り組む予定である。講師や別室指導の人員を増やすために、八王子市からの支援を得ることもできた。

③地域からの支援について

「安全と信頼」の要素について特筆すべきは、第九小学校の地域の力である。毎朝子ども達の登下校を見守る地域の方々には、頭が下がる思いで一杯である。学童保育や放課後子ども教室の充実ぶりもすばらしい。振り返れば、運動会前日にテントを集め児童席全てを覆う12張のテントを張り上げてくださったボランティア。台風により川口川と浅川の氾濫が予想された夜間に避難所まで高齢者や子ども達をピストン輸送してくださった学校運営協議会やPTAの活躍。地域を中心とした防災の取り組みも進んだ。学校の安全は、地域の力なくして成り立たないといえる。3年間に及んだコロナ禍対応においても、地域の方々も保護者も「学校の方針には、まず協力しよう。」とする対応であり、大変ありがたく思った。

ただし第九小学校を支える**地域の力にも高齢化と住民層の入れ替わりの問題**が感じられる。「**地域の新しい力や若い世代を、どのようにして学校に引き入れるか。**」は本校の課題の一つであり、この対策は後記する。

(2) 三つの働きのうち、「学び合いを充実させる働き」の観点から、ふりかえる。

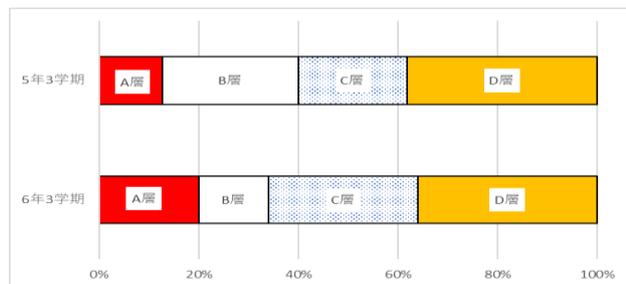
学びあうことは学校の中核である。第九小学校は「学校に集まる子どもも大人も、学び合い知・徳・体を高め合う」学校でありたい。

① 子ども・教職員の学び合い～授業改善について

まず、今年度の6年生を対象とした八王子市の学力調査の結果を見る。

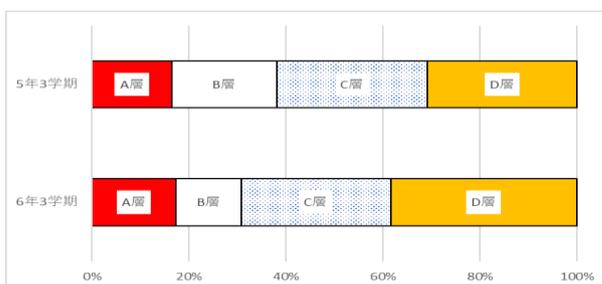
【表5】市学力調査『国語』の結果。

国語	A層	B層	C層	D層
6年3学期	20.0%	14.0%	30.0%	36.0%
5年3学期	12.7%	27.3%	21.8%	38.2%



【表6】市学力調査『算数』の結果

算数	A層	B層	C層	D層
6年3学期	17.3%	13.5%	30.8%	38.5%
5年3学期	16.4%	21.8%	30.9%	30.9%



まず明らかな課題としてC・D層の多さがあげられる。また5年生の時と比較するとA層は増えているが、C・D層の合計も増えていることがわかる。**「低学力」と「学力の二極化」は本校の大きな課題である。各担任をはじめ授業改善には真摯に取り組んでいるが、一層の授業改善に取り組む必要がある。**

「読み・書き・算盤(3Rs)」やノートの取り方を中心とする基礎的な学力だけでなく、授業改善に当たっては、「一人でも多くの子どもが参加できる授業」「楽しくて力のつく授業」を目指していく。

あわせて生活習慣や自己意識の改善にも取り組みたい。6年生を対象とした意識調査や生活指導アンケートを見ると、低学力の背景として生活習慣の問題や自己肯定感の低さがある。生活習慣については保護者の協力を仰ぐとともに、子ども自身の意識を高めることを通して改善していく。

自己肯定感の向上には、「①子ども集団のかかわり合いを深めること。」「②失敗を認めた上で子ども自身による試行錯誤。」が効果的だと考えている。

② 地域における学び合い～地域学習・郷土学習の充実について

第九小学校は創立150周年となる歴史ある小学校である。「祖父母の代から第九小に通っている。」という地域の方も多く、地域が学校に寄せる思いは、あたたかく深い。一方で私達教職員や保護者の方々をはじめとして市内や学区にたくさんあった織物工場や染物屋について語れる大人も、浅川に集まる野鳥に興味をもつ子どもも少ない。地域の祭りに参加する子どもの数も、町内会活動、PTA活動などに参加する大人の数も減ってきている。

地域に根差し、地域に参加する子どもを育てるために地域学習の改善も課題となる。**地域について、地域の方を通して学ぶことは、地域とのつながりを深めることにもつながる。**八王子市では日本遺産認定などを契機として、郷土学習の充実を図ることとなっている。**総合的な学習、社会科、理科、特別活動などを中心として、地域教材を開発するとともに地域人材の発掘にも努めたい。**

先に述べた様に、第九小学校を支える分厚い地域の力にも高齢化の課題が見え始めている。学校から地域に進んでかかわることで「第九小学校を支えたい。」と考えてくださる方々が増えることを願っている。**子ども達の学習を通して、地域の方々に学校に参画していただく**のである。PTAとの協力も進めている。

(3) 三つの働きのうち、「いきがいを充実させる働き」の観点から、ふりかえる。

「安全と信頼」を基盤とし、「学び合い」を中核とした学校において、子どもや教職員の「いきがい」を追及することは学校の理念にかかわる。この「いきがい」をもつために、二つのことを重視している。

第一に、**「ほっとできる時間と空間」を作ること**である。大人であれ子どもであれ、一人ひとりが毎日安心して過ごせる「ほっとできる時間と空間」は、いきがいの基盤である。

このため本校では、子ども相互・大人相互のかかわり合いとライフワークバランスを重視してきた。授業での学習活動やたてわり班活動などで子どものかかわりを深めたり、「わいがや」という保護者の雑談会を新設し、保護者同士のかかわりを深めたりしてきたことが一例である。

第二に、上記した基盤の上に**「自分の努力が仲間の役に立ったという実感」を作ること**である。共通の目標に向けた集団的な取り組みの中で、努力や試行錯誤を繰り返して、「自分も成長し、みんなも成長した」と思える時に、「いきがい」はうまれやすいと考えている。

このような学校づくりのためには共有しやすい具体的な目標をもつことが有効である。そこで5年前に【表7】のような**「九つの取り組み」**を作成した。児童・保護者・教職員の三者でこの「九つの取り組み」

を共有することを継続してきた結果、前掲した学校評価でも設問 1・2 のアンケート結果から見られるように、目標や取り組みの共有について、高い評価をいただいたと考えている。

【表 7 九つの取り組み】

あ)「ありがとう、あいさつ」の取り組み

◇育てたい児童像＝ありがとうと感謝のできる子、あいさつのできる子。

い)「いれて、いいよ、いっしょにやろう。」の取り組み

◇育てたい児童像＝「いれて」と声をかけられれば、誰でも必ず仲間に入れる子。
＝自分から進んで「いれて」と声をかけ、自分で居場所を作る子。

う)「うたごえが、いっぱい」の取り組み

◇育てたい児童像＝歌うこと（音楽）が好きな子。友達との合唱や合奏を楽しめる子。

え)「絵が好き、絵になる」の取り組み

◇育てたい児童像＝絵（図工/美術）の好きな子。

お)「音読・暗唱・第九小の100冊」の取り組み

◇育てたい児童像＝読書や音読や暗唱活動に取り組み、語彙の豊かな子。

か)「考えて書く。書いて考える」の取り組み

◇育てたい児童像＝自分の考えを、書くことを通して整理し、表現できる子。

き)「聞いて共感する。共感して聞く」の取り組み

◇育てたい児童像＝友達の話をも、「そうだね。」と、まず共感的に聞く子。

く)「苦しみに耐える粘り強さ」の取り組み

◇育てたい児童像＝粘り強く努力する子。

け)「健康な生活習慣、早寝・早起き・朝ご飯。」の取り組み

◇育てたい児童像＝健康な生活習慣を意識して、自分から改善に取り組む子。

2 次年度の課題

繰り返しとなるが「**安全と信頼を充実させる働き**」「**学び合いを充実させる働き**」「**いきがいを充実させる働き**」が、**第九小学校の「三つの働き」**である。この「三つの働き」を充実させるための手立てについては、ここまでにも、いくつか述べてきた。次年度に向け、あらためて下記の三つの視点で整理する。

(1) 「安全・信頼」の視点から、登校に困難をかかえる子ども達の居場所をつくる。

コロナ禍ともかかわって欠席 90 日以上の不登校児童が 13 名へと急増した。30 日以上欠席は 30 名にも及ぶ。本校では生活指導夕会や校内委員会、登校支援コーディネータ制が有効に働いており、引き続きこの良さを生かしていくとともに、登校に困難をかかえる子ども達の居場所を学校の内外に増やしたい。

まず、**多様な子ども達を包みこめる学級集団をめざすことや、一人でも多くの子どもが参加できる授業のあり方を工夫することが求められる。加えて、保健室・職員室・けやき教室・校長室・SC室・低学年算数教室など、教室に続く子ども達の第二の居場所づくりにも取り組む。**

ありがたいことに八王子市から別室対応人員拡充のための予算面でのご支援を得た。教職員に加えて地域のサポーターやボランティアの皆さんの手を借りて、困っている子どもにたくさんの大人が声をかける学校をつくっていく。放課後デイサービスやフリースクールなどとの連携も工夫したいことである。

(2) 「学び合い」の視点から、授業改善・学力向上に取り組む。

学校は大人も子どもも学び合って自他の知・徳・体を高め合う学び合う場所である。子ども達のよりよい学び合いのために、まず私達大人が学び合う必要があり、校内研究や学年会がその中心となる。**授業実践を見合ったり子どもの成長について語り合ったりする時間を、質・量ともに充実していく。学校運営協議員の方など地域の方にも公開を進める。**

また、前記したように本校では、生活習慣の乱れと自己肯定感の低さが、学習意欲の低さと深いかわりをもっている。家庭や地域とも力を合わせながら授業改善も通して、この課題の改善に取り組んでいく。**子ども大人も、共に試行錯誤し、失敗や間違いを認めあいながら学び続ける第九小学校でありたい。**

(3) 「学び合い」「いきがい」の視点から、地域学習を充実させ・地域人材を発掘し、地域に根差す学校をつくる。

本年度は創立 150 周年の取り組みとして地域教材の開発に取り組んだ。引き続き具体的な地域教材を開発することや、地域人材を活用していくことが求められる。

歴史ある学び舎である第九小学校にとって、**地域に根差し、地域に参加する子ども達を育てることは重要な使命だといえる。そのために、保護者や地域の方々に参加していただく学習活動を工夫したり、地域教材の開発に努めたりする。コロナ禍を克服し、より地域に根差した学校となるために、校内研究を核として取り組んでいく。**

【以上】